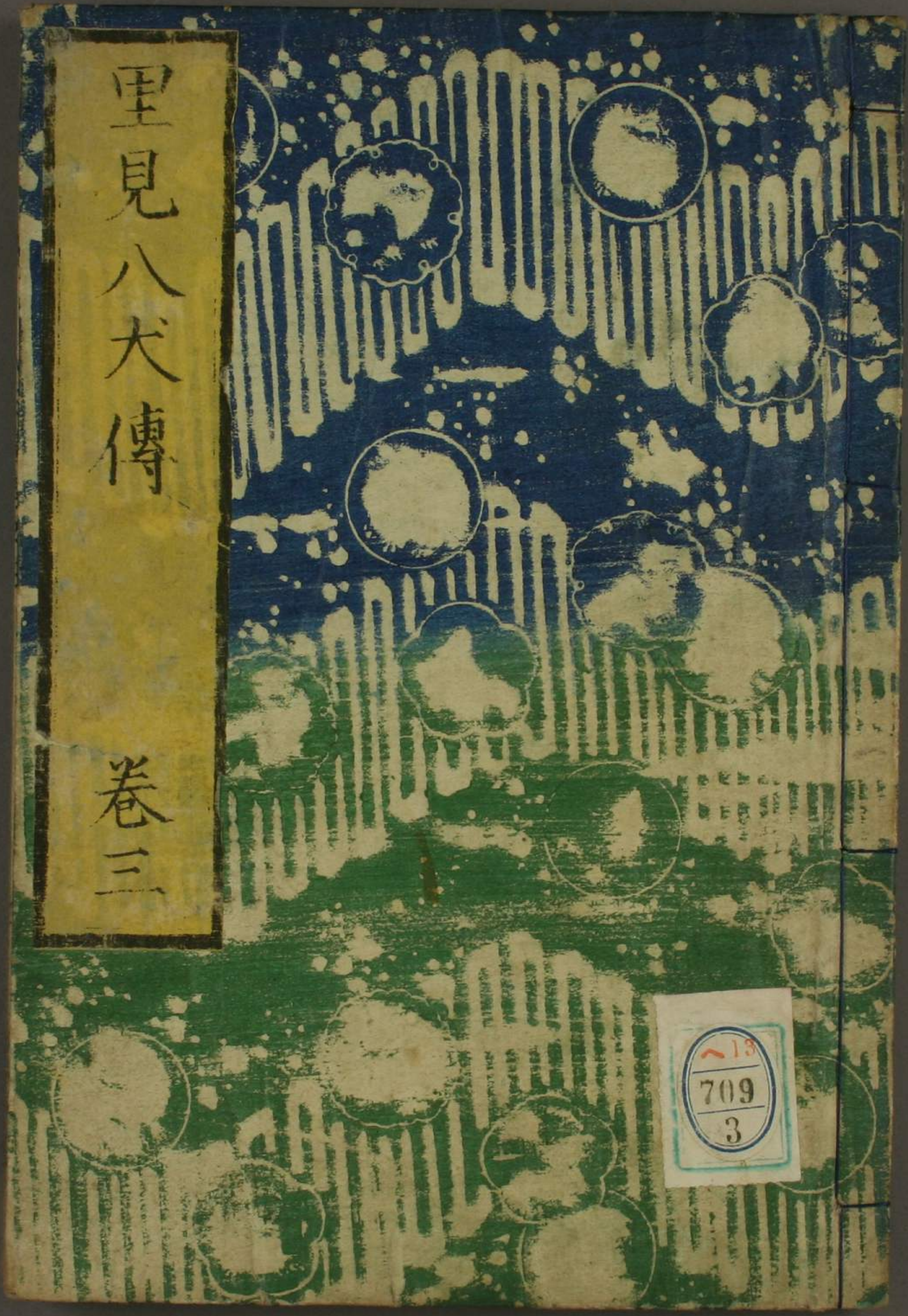




里見八犬傳

卷三

709  
3







日中討ひの大將は揮ひて遣へし今を穿ひの奴原を蹴散さんと疑ひ  
 る。この騷ぐとらとて只兵小四門城護らせしを再び又奥ひ入りて婢  
 むらとらつと歌舞艶曲小奥を催。酒宴酣なり凡正廳のくまじく  
 ようらぶとくと叫びて定包の管絃のひびとがせせ耳然則異なほのめく  
 声さあつる男童どももんとく来よ。とりは左右はたもてる。個の小扈後ゆら  
 ともふ立あがらん。とさる程もあはせぬ多ひげりて度門り。嚮は討ひ向  
 らまてる軍兵五六十人数个所の深淺を履しりけ。大將岩熊純平を  
 楯のうへは拾り乗せ得るがごとく疎箱のぼりまぐ推し。異口同音ふ  
 注進ごこと喚りて員と撲地と打ちろく。二帯ふ立つて阿容ごこと  
 ぞく。躑躅の仇武者なごとも二個所三個所所を履しるもたのり。玉梓ハ劇惑ひく婢むら小扶くを屏風の背を隠しけ。

定包の呆果と。これハ什麼何れぞと問はく先よまごみ。老軍  
 小頭と搔死す。大將の軍配は駒方の進退一致せぬ。敵も  
 矢のいやすむる勇將あり猛率あり。老軍大軍ありしうが勢も射れども  
 おともせむ。一陣は進は猛將鎌の上小大荒目の浪を重く長一丈ありり  
 かる。鎗アまうくとうち揮る馬の平頭は引添く。眼は睜り。大音揚群賊天  
 罰晚まび白刃は白刃は臨む。虎威を犯さる愚かり。老軍むらや  
 里見義実朝臣す。小遊歴をひし。武州民推く主君と仰死逆。城を  
 寛く報ふ。事のみ。先東條の城を降して。孝毛酷六を誅戮し。  
 更に瀧田の城を抜た賊主定包を誅せん。孝吉先陣をうけあがり。  
 ち郷道す。古主小仕。共は神餘の福。給。金碗八郎を忘る。

彼古主のるは漢と佐は秦楚を討る。張子房が孤忠は傲ひく。里見の君は  
 扈後しん義兵を勧めたり。敢刃小鮮らばして一城を抜死二郡を畏る。既小その  
 巢小近つたり。非と悔く兎を脱た。浄方小余るもの生人勅防は戦は天小  
 向く唾死淵は臨く水成亦如く。勞らく切たれたのさるるどその外口その角は  
 被りをえん。いづく試まよと嘔りて馬は拍は滄閃く。縦横を礙は轂は麻非け。  
 一色一陣を突山崩しく。大将清塚と滄を合し人ませのせは戦ひ。孝吉大喝  
 一声しく。幾内か滄巻かして胸前中ましく丁と突衝まてく馬より撞と落まの雜  
 兵ホ支よりく。押く頭取取くけり。清塚竟は替れく。則たさるるなる。山石熊  
 沈平大死は怒りて。四尺六寸の大刀抜鬚。金碗を替んとく。真一文十字は  
 馳よまれば。二陣は進む里見の老堂堀内。人負初と名告つ。紺糸の甲小  
 旗形打くる。曹の緒と縮連流。芦毛の太く遅死馬よりち跨る。備前長刀の鏑

さがりふ。昌蒲形なる。狐披を渠奴を五口倚は替り。多と金碗は合釋  
 まる。馬と躍らせ衝と出く。沈平を速苗免丁とをく。と戦やる刀尖  
 より火を散し。一上一下は煉の大刀用。おろと勝せ。又えいひく。何とら  
 ちん山岩熊は馬の平頭破列を。主のろ共は轉輾。負初長刀より延く。  
 内兎を破と突ありや。沈平。おれぬべく。又えく。烈我其木等。肩小引  
 被辛しく。逃走は敵の天將里見。義実三才駒は雲珠鞍置しく。萃  
 ち小澄つる。威风凛然。四下を拂く。馬上はくけく。麾うち揮り。くくくと  
 今も後ふ勢。潮の涌どく。咄と唬て攻まると。躬方ハヤとく。辟易して兎を  
 脱弓を伏大く。かつく。降急しく。却すろく。我射る。終小強る。六十  
 餘騎。深獲。体獲を負ぬもた。ちや。必死と脱る。逃る。いと。生見は沈  
 平面る。げ。の。い。ん。と。ま。つ。れ。ど。も。小。鬚。の。外。を。劈。き。背。を。馬。は。敷。き。く。

既も擡ゆと日教ある冬の蜂痛し小さきながら攪えかゝる既乃  
 息なる物の益ぬ立ざりけり。定包の父あは眉うち聳め大息つた  
 里見の結城の工力入る彼城没落を成ると死誓せぬけり。とゆふふ  
 歿漂泊と大軍孤起せんと。とゆふふゆふとゆふとゆふとゆふと  
 城と。酷六替れとらんゆの城兵あふり来る。告よとゆふとある  
 るらば又彼金碗孝吉の神餘替代近臣るれとも逐電くる癖者  
 身の措とろわぬ死やふ小潜び入ると。彼此たる愚民を惑し。野武士を  
 集めとるる流言と。英気折く詭の計ゆとあらんまらん。とらん  
 奇隊の惣大将の真の里見よよもあはじとゆふとゆふとゆふとゆふと  
 勇臣る。我内の墓なく誓せ純平深獲を負ふ。時運ふよるとゆふ  
 わら。侮りかた敵ゆとある。ゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふと

志と。その消息或問せんゆの虚実のあはく。とゆふとゆふとゆふとゆふと  
 小扈後ホまり来り。東條の落武者ホ逃り。とゆふとゆふとゆふとゆふと  
 亦虚説ゆのあはく。ゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふと  
 より。ゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふと  
 酷六又後ゆと。ゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふと  
 高くとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふと  
 東條と攻ゆとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふと  
 寄せるとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふと  
 づんかゆとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふと  
 ゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふとゆふと



雑人們がひびくを死め敵の使にせざる間は件の使者と出さるる今  
 予が小館山平館へ使さるる死と思ひ入るる同く妻立戸五郎とゆる  
 りの声は進み出願の果るけりんとし定包大元は歎び泣  
 幾内宛平亦あつて予がつら代志するの事ありとて我許さらんや  
 館山平館へせむと景連ホといふべし定包古主の送續と収て新小二郡を  
 領せし小結城の落人里見義実當四へ漂泊して愚民を惑す野武者を集め  
 不意に起る東條の城を乗取り勢ひは衆人既小滝田へ推しせり鬼  
 軍はとて孤患ふことその禍遠くぞ等難及べかり定包不肖ひ  
 とも正しく神餘の遠領我受むる舊好のその家小あり西君いつて鄰郡の  
 兵後我救むと共い撃我受むらんや速に出陣し東條我攻む敵の  
 強我襲ひむる義実三面六臂ありとも三方小敵我受む防戦むるへり由

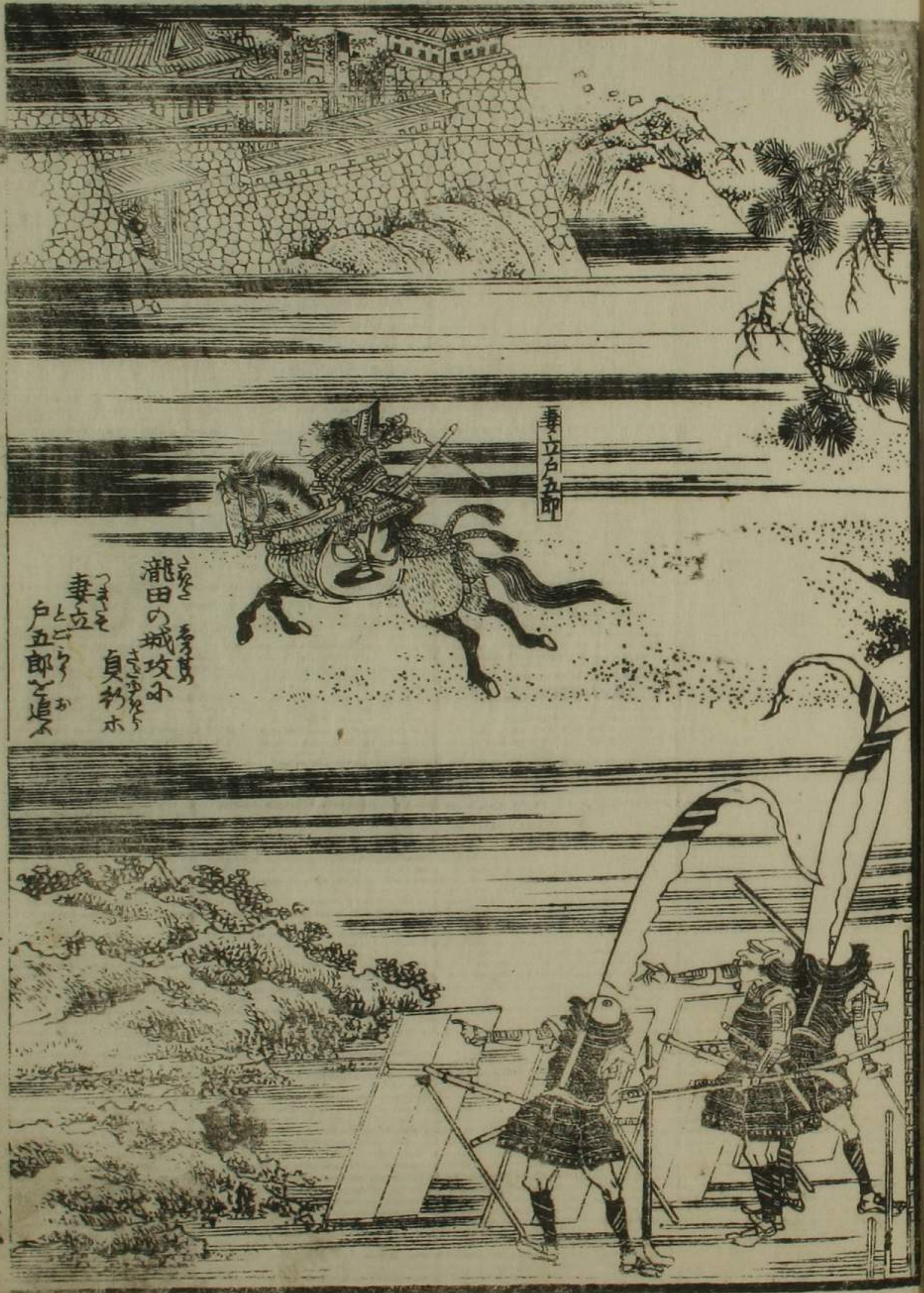
あらとて康金ふせけれん疑ひる死の元義実斬く誅伏せし西君の  
 賜あり定包平郡一郡瀧田一城あり事足らん誰あもや東條と  
 攻むる人長挾郡を進せんと可嗚は演しといふ戸五郎  
 面を瞻げ津波でいふともや里見の滅ぶとも長挾郡人取むを  
 みるる野領を削る外の援我懸むるは賢慮とめぐる  
 ともは後悔りやいんと老當りるを辣れは定包のあへむるも微笑  
 汝もあつて予が計畧するん鷓蚌持しと漁者小獲らる長挾  
 一郡我餌しと安西麻呂亦小東條我とり復させ文は里見をころし  
 滅さば景連信時利は迷て確執及ぶべし件の西將彼地と争ひ合戦  
 志すかるとは一方ハ傷らる一方ハ必替れんこと則その虚亦衆  
 安房朝東の二郡我取らん當國は平均し居あがらふ

八代傳卷之三

山崎堂藏





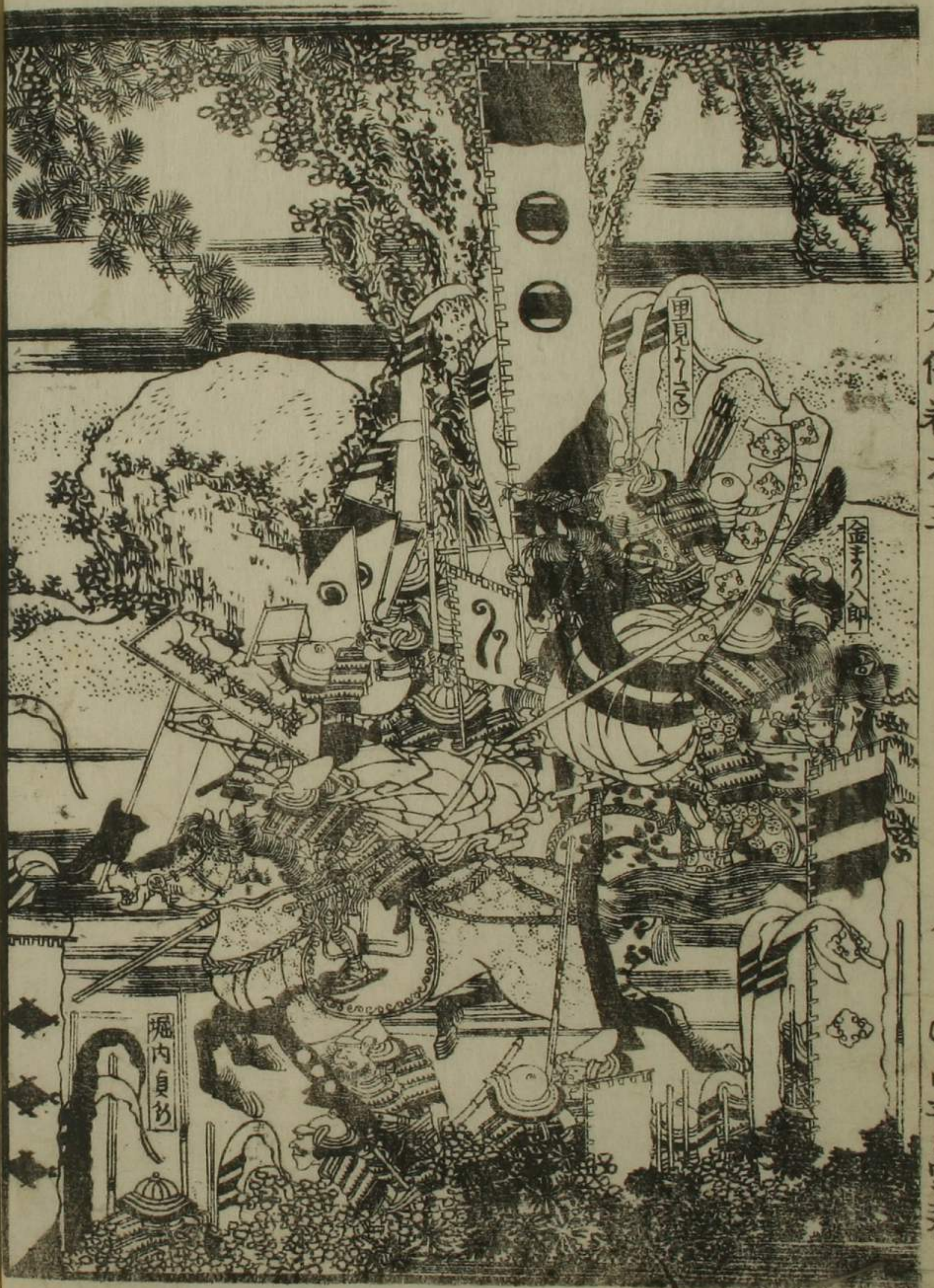


妻立戸五郎

瀬田の城攻め  
つまご  
妻立  
戸五郎と追ふ  
貞祐  
貞朝

八幡巻之三

九



金吾八郎

堀内貞朝

八幡巻之三

九





ありし時既ニ繞季ニ及びく利ニ取入ル其甚衆ク徳小よるの究ミ  
 寡し君が兼愛濟く敵城小籠る民すく助たす思ひ召とも  
 勢ひ西るが全う兵糧既ニ竭るが流の計り城を乗取正成  
 要せよ又流計り退くと成肯多の徒小日を送り多九郎方の千  
 餘人饑渴よゆ悩を離れ叛んさ所と死ん又誰と共に大事と真一  
 へ死宋襄の仁微生信八日来笑せぬや且賢慮とあぐら  
 あるべうらんとうろけゆぞ長実元余とうち笑て兵糧乏くたりぬ  
 よふ予も又こ此患ざらんや物を思ふ空のそ軟彼此とうく瞻望に  
 東南のここの畑は鶴野求食あり彼何れより取入とられ瀧田の  
 城より早小来と父小なる還るし鶴の源家の氏の神八幡宮乃使者  
 とそいあなるよとようて不意些の樹を獲りしるべ則神小祈り

上校のふみあろゆるさうと籾小籠一と件の鶴五六十を捕りかて数通の  
 檄文を書写め件の鶴の足は結びて放さぬるが城へ還らんさると  
 人怪ミ。鶴をとくつとその書とるべし。や捕はとあぐら結目解て  
 落るもあらん城中ニあるとつらめ。あの檄文を披閱て逆成去順は帰を  
 まろ起らば変を生じ。城の攻む必破きん繹り成らば四の仇賊主定  
 包とのと殊しく。民の望と果さべし。城兵豫く定包も後ふらた死めゆ  
 まるる入あがるく小殊けらんと陥て仇のぬ小城を守る歎き  
 又不便あり。城は小児の智よ知とく。果敢あれ謀と似くはとも是裏よ  
 此方へ来ると死待崎の厚とりたる白旗の神は祈き山鶴の祥瑞あり  
 今又また心語の祐ありと祈るの成るるが神小祈り。如此  
 んよと仰るが負の孝吉とて甘く。微妙謀とせむひける。今定



仁君有り。曾刃小鮮らむとく東條の城を落し。今又た小吾們を憐れ  
 るふとわくの如く。清名を不化の慕し。名ひをうごころよあやねとつこ  
 てや城又駈入らむとく。十重北重小圍きてふまらぶ死よりゆる。堀と踰  
 城溝を越從必へまらむとく。今さら赦させらる。と名ひし故こ  
 黙止し。可詮寄し小内應せんとき。隙を窺ひ日と過さず。緋見小護覺て  
 彼知へはゆ糸々む塵塵とせられなん速と名ひ起し。本城へ火を放煙を  
 場と寄しと誘引緋の紛さる乱れ入りし。人啖馬を替殺し。そが素  
 頭を見糸の壺出物小進とせらむ。ゆい年来乃寔を其知。返返へ  
 一の里見の君の御感のハハ不不させらる。一の集小聚合。衆  
 議とや一決まる。戎ハ又陥と。第一の出陣人あり。精塚幾内を  
 討死をれと。彼岩熊純平ハ小殘大と。平愈と。二の城戸を獲。皆

なる先君せんくん神餘かみのあま世さうりなよと死渠ハ馬奴うまぬわろめめわらむと。あやむあやむ悍いく。  
 脊力強り。定包二郡を押領せ。後漸のち小重用こちゆうせと。民の膏と絞  
 と。奸智ハ主と異なるあやと。又彼妻立戸五郎ハ総角の比ひより。定包小  
 使と。隨一の近習きんじゆあり。武術才藝人ハ勝と。今るは主のわたりと。去  
 らむと。この二人ハ戦いくさと。本城小乱れ入ると。彼小固こと。その  
 黨かみを。忽地たちまち逃にげ出でられ。あや遂と。死しるありなん。この強ハつよいふ。と  
 密語ハ皆有理ひそごと。さう。件くだりの兩人を替と。その翼つばさを除と死し去る。  
 名ひの隨したがうる働はたらきせよと。その部ぶを。その次の日妻立戸五郎ハ  
 彼檄文と拾ひとり。統由とゆう統とらむと。撤馬せつばハ慌忙わうめいに二の城戸じやうこあり。岩熊純  
 平いんくま本知ほんちへ赴おもむけ。固様こさまとのみ。丁ていをあき速すみと。皆みなあけて。莊客じやうかく們と擲捕てきと。  
 その梶かぢを未獲みえつと。避よこむと。大おほ事ことふ及およべ。と。是こゝに人ひとと懐なつと。一





のぞき鳴呼わの工然いふの今定包と謀さるん故主の仇を報ふそを  
 弑逆といふべうらぶ。志すや定包あつく謀りて豫て已を恨むといふ朴  
 平。元垢三ホごめ貸借と。主君を替せし緯の類。口外とるん今をがめく  
 志すもその日ハ朝暈り。夏るの寒は落羽が岡香ふ追ふもるのよて光  
 弘の乗多ひ。鶴毛の馬驚きと死定包ハ口が白馬と驚く主君不敵  
 おん乗替と僕んとく。その力ハ其知より引さがり死切てぞ朴平を垢  
 三ハ彼白馬を遙く視て定包と名ひる矢比近くわらふふよん引  
 彈と幾の箭前光弘朝臣ハ白首を射さう。馬より撞と落ゆふその前の日ハ  
 定包ハ吾侪を六韜小招死よせ如此との密謀あり汝日まは荷擔きて登  
 持倉の朝立又國主の乗馬又毒と餌へ事成ると死ハ重く用ひんこの口ハ當  
 座の賞獲とく。物駭とせり。よふあるま死ると多へと彼ハ老臣にこれハ

奴隷勢ハ敵とせうもあむと否といひ殺さるん命又換るめのため。と  
 一強又及む義引く。その日馬を驚しつゝ。あつた二郡西城ハこれ定包ハ  
 さらせしこの徳この祖又報んとく。今老堂の後又とせしや大事と  
 任さるとも絶く恩とあつべうらぶ。これらのる我志るめハ萎毛精塚兩人  
 ろ紅花渠ホハ泉下の人とぞわたりぬ今でハ和殿のミなるべし加旃妻立生和  
 殿ハ月ごり日来よ。夫人ハ懸想し。暨ぬ恋ハ物をあふとこれ豫て下り  
 猜しつゝ。志すふかやあひくへ。人啖馬と替と死ハ賞ふうえて由玉  
 梓を妻小せんとも易かりなん。かくても吾侪又與せ給や。飽やで親ま  
 戸五郎ハ動く心とめろ夜ハ又たる子を釈く。忽地小膝を礮と鼓のり  
 所寔よ志す逆賊又後ひ。刃の汚穢と洗んぬ小理と捐て大義と伸る  
 和殿の張ふ了を後へけは速ふし。と大さかろは諾ひし純平

大蛇は怒びく。あつらへとせん。おせんとも。送は耳成りりく。遠げは  
 相譚り。あつら山下定包の宿酒いよ。醒まると。後堂を告ぐ。た女の  
 童のま左右小果とせ。翠簾を半捲揚る。わら柱よを倚て。慰ま  
 徒然。尺八の笛吹まき。又は餘念のわらりけり。浩如小岩熊純平の  
 妻立戸五郎を先よ立。事ありくと叫び。毎の障子開放ち。主の  
 ぼとりへ来る程。あつらとゆる。夥兵數十人。為軽く。遣ふて。器械引提些  
 後れ。次の房なる。いろくの花多画たる。腰障子の陰。又懸て。おのく  
 奥と隙窺をり。定包の純平。ホガ忙。来る。尺八の音をと。あつら  
 何る。と。回せ。あつら。両人。齊一声を。立。積。悪の家。餘。殃。あり。城中の  
 民。みる。叛。れ。く。穿。ひ。城。引。入れ。ひ。城。躍。を。旋。ひ。べ。ら。び。お。腹。を。め。れ  
 以。吾。倚。ぬ。措。仕。せん。とい。ひ。ゆ。先。進。ま。り。戸。五。郎。ハ。刀。を。見。り。と

引。抜。り。跳。掛。り。破。著。り。推。糸。ま。と。と。尺。八。の。笛。の。く。丁。と。受。留。れ。ハ。笛。ハ。中  
 へ。り。と。ま。り。小。破。れ。り。頭。ハ。通。り。飛。散。り。戸。五。郎。ハ。あ。り。ま。り。由。一。の。大。刀。と。替  
 損。主。と。あ。つ。ら。ハ。心。憶。と。武。者。戦。へ。進。む。と。定。包。贈。ま。る。眼。尻。引。立。原。来。汝  
 小。謀。叛。を。企。て。予。と。替。ん。と。ま。り。あ。つ。ら。の。鳴。乎。あ。ま。り。と。敦。圍。ま。り。立。ん。と。ま。れ。ハ  
 戸。五。郎。純。平。透。間。由。わ。り。替。り。刃。の。下。と。り。脱。受。る。じ。切。口。尖。る。尺。八。を。し。槍  
 の。穂。取。と。閃。せ。と。も。刃。小。寸。鉄。と。帯。され。ハ。飛。去。り。と。打。笛。竹。の。鏡。現。し。戸  
 五。郎。ハ。右。の。腕。と。り。脱。色。忽。地。苦。と。叫。び。あ。つ。ら。ハ。刃。と。撲。地。と。落。し。尻。居。小  
 撞。と。倒。し。て。定。包。の。刀。と。走。掛。り。件。の。刃。を。取。ん。と。ま。り。後。小。閃。と。純。平。が  
 刀。尖。さ。り。小。斬。り。大。刀。小。隅。と。七。九。命。を。去。り。小。破。著。ら。ま。り。刃。を。奪。奪。小  
 眼。か。く。又。替。り。か。り。純。平。が。刀。の。銛。え。う。ち。落。し。そ。が。俵。と。引。組。て。上。小。わ。り。下。こ  
 ろ。り。且。挑。と。争。ふ。の。う。ち。定。包。ハ。你。獲。と。負。ぬ。勢。ハ。既。衰。へ。り。竟。小。膝。下。小



岩熊とん平

妻立戸五郎



庵平戸五郎  
便室  
定包を

山下定久

組布色ぬりふ人を心立まへ純平の頭我のんと腰を搦き中刀を振落  
 ちて後方小あり。いふせま。と心劇。名もどええ。唯ひの方小倒さ  
 妻立戸五郎が。打うけらさる。笛竹を。こき究竟と扱とりつ反えさんと  
 定包が。呪をふさとつらぬ死ぬ戸五郎の竹と扱れ。忽地人気が死岸破と  
 起つて。死にえ。落せ。刀を拾とり。岩熊は。速とせ。純平は。定包が。頭  
 うら切て。立あがる。さ。野の兵士の純平。小荷擔き。次の間まで。来  
 る。と。その勝負を測る。桃。こき。杖。既。定包が。替  
 る。紙。遠。障子。紙。門。紙。うち。敲。の。声。と。揚。う。け。る。さ。る。程。は  
 主の。左右。は。つ。り。る。女。の。童。お。お。ま。迷。ひ。と。庭。門。より。去。去。これ。彼。小  
 告。ゆ。け。は。緯。果。る。比。近。臣。亦。遠。竹。より。身。由。あ。ま。と。彼。兵。士。小。抑。留。せ。れ  
 言。ふ。この。と。死。替。れ。は。け。し。況。く。お。の。敷。る。う。ぬ。女。房。お。は。只。位。叫。び。死。純。平

令。と。玉。梓。の。ろ。共。一。人。由。漏。さ。は。生。拘。ら。せ。お。の。く。金。銀。財。宝。と。名。ひ。の。ま。り。小。掠  
 奪。て。正。廳。の。う。え。去。ぬ。現。天。の。人。を。罰。さ。る。時。あり。と。輕。重。候。と。わ。り。定。包  
 奸。智。を。逞。く。主。を。傷。賊。ひ。所。領。を。奪。集。ひ。浮。雲。の。富。と。な。る。と。い。は。百。日。と  
 出。ぬ。と。又。その。家。臣。は。殺。さ。れ。り。加。以。そ。が。首。を。取。る。と。死。件。の。岩。熊  
 純。平。お。は。さ。る。び。の。刀。を。用。せ。ば。切。口。尖。り。笛。竹。は。是。竹。槍。の。刑。は。他。と。又  
 彼。妻。立。戸。五。郎。は。定。包。が。恩。顧。の。の。え。其。由。笛。竹。の。洗。視。は。替。れ。て。一。早。息  
 絶。へ。悪。人。なり。と。も。主。と。替。り。つ。眞。罰。さ。る。ん。お。そ。る。と。就。中。純。平。は。その。罪  
 比。ん。の。の。も。あ。ら。む。と。神。餘。が。馬。奴。と。り。と。死。逆。謀。と。志。り。つ。も。定。包。が。為。小  
 主。の。乗。馬。を。毒。殺。し。又。定。包。は。仕。て。さ。す。ま。く。その。悪。我。佐。と。刺。剥。と。さ。す  
 民。と。苦。め。悪。報。の。身。は。係。り。小。及。び。と。脱。き。ん。と。と。又。主。を。替。り。つ。後。若  
 人。は。與。さ。す。い。ふ。と。も。お。の。の。と。く。よ。と。後。栄。ん。や。む。う。後。漢。の。光。武。帝。ハ



つらみく。食万歳と唱ふ。且しと後陣なる。負行由來よけき。前駐後後  
 の隊伍を整正へ。大将徐又城小入く。隈方く。巡歴し。多く。神餘が。あまそくし  
 時より。只管驕奢小耽。了ら。新麗壯觀玉を。敷金を。延びといを。まゝし。  
 加以。定包又民と絞く。飽ま。貪貯。米穀財宝倉廩小元。師  
 公が。阿房小入し。幕下。泰衡を。討し。日。か。や。と。お。り。小。む。り。ま。え。  
 さ。ら。ま。け。ま。し。も。義。実。一。毫。由。犯。ま。ま。た。り。倉。廩。破。れ。り。二。郡。を  
 かる。百姓。ホ。又。領。與。多。く。不。負。形。ホ。と。且。兵。練。く。定。包。殊。伏。ま。ま。し。も。る。所  
 平。館。山。山。の。麻。呂。安。西。の。強。敵。あ。り。車。小。の。城。と。獲。く。軍。用。之。く。ら。び  
 かの。や。う。一。毫。由。貯。り。百姓。む。り。又。賜。さ。る。賢。惠。つ。や。く。さ。ら。ぬ。に  
 と。眉。う。ち。聲。て。ま。ま。の。中。ぞ。義。実。使。り。う。ち。魚。夜。さ。る。あ。の。眼。前。の。理。小  
 似。と。し。も。民。ハ。これ。國。の。基。た。り。長。次。平。郡。乃。百姓。ホ。年。来。惡。政。小。苦。ま。て

今。逆。成。去。順。小。歸。せ。り。飢。寒。と。脱。ん。ぬ。う。ら。び。や。あ。ら。び。又。負。了。く。彼。窮  
 民。と。賑。ま。り。その。定。包。ホ。又。異。ち。く。倉。廩。又。餘。粟。あ。り。も。民。み。る。叛。き  
 ち。な。り。ま。る。が。孰。と。も。又。城。を。守。り。孰。と。も。小。敵。を。御。示。ん。民。ハ。これ。國。の。基。え  
 民。の。富。の。つ。が。富。む。ん。德。政。空。し。か。ら。ざ。り。せ。ん。事。あ。る。と。た。軍。用。ハ。本。び。由  
 集。め。り。惜。む。と。ら。と。宣。つ。不。負。形。ホ。ハ。又。あ。も。い。ら。び。感。涙。坐。小。禁。子。て。あ。ん。ま。を  
 退。出。り。却。説。次。の。日。義。実。ハ。正。廳。又。出。ま。り。首。実。檢。と。と。り。降。入。純。平  
 戸。五。郎。ホ。を。召。し。せ。り。主。を。殺。す。る。と。の。越。金。碗。八。郎。と。同。く。多。く。西。人  
 齊。一。ち。う。び。や。う。定。包。ハ。主。と。仆。し。土。地。と。棄。る。逆。賊。る。と。も。某。ホ。討。と。か。る。を  
 候。又。その。小。小。属。ら。る。竊。又。時。運。成。ま。し。左。え。た。ら。れ。バ。ま。の。小。賢。君。の。御。教  
 書。と。め。り。ま。る。柴。を。去。湯。小。歸。く。見。糸。の。牽。出。物。又。彼。首。級。を。齎。し。り。  
 と。ほ。り。小。陳。ま。ま。金。碗。八。郎。冷。笑。ひ。辭。巧。ま。ま。う。せ。り。も。そ。の。を。ま。ま。う。せ。り。ま

虚言あり。抑汝亦兩人ハ定色ガ要成佐ク刑民を虐する。緯既ニ隠き方ハ  
 さふよる軍民ホまづ汝ホを怒んとそ。その後成取る程ハ汝ホ尾を信じて  
 刃の咎を脱んぬ。さて定色と怒りたるは。孝吉仰成美ら。城中の  
 民ハ同その疑をたや。あまり。かるとけ。是とも陳ざるや。といら。且つ。西人  
 驚と世中ハ純平眼成睜。その戸五郎。渠ハ總角の比より  
 志と。定色又仕へ。第一の出成。志と。戸五郎。美美女玉梓。又  
 思ひ成運。密業成果んぬ。某ハ荷擔。初大刀を替へ。いひ。い  
 某底意を猜せ。身の潔白と明んと。彼玉梓と生拘ら。世押。置直  
 いへ。百せ。分明。玉梓。情あり。主を替。射方。つら  
 いらせ。あ。戸五郎ハ。声を。立。八郎。此奴ガ。辭を  
 実。と。其。玉梓。情あり。主を替。射方。つら

ちつと。純平ハ。當。神餘。馬の口。附。落羽。固。狩倉。定色。相。續。して  
 主の。乗馬。小毒。を。餌。光弘。一。成。亡。定色。二。郡。を。奪。ふ。及。び。て。第一の  
 成。取。り。民の。怒。由。大。さ。か。つ。その。外。口。を。脱。ん。ぬ。二。代。の。主。と。怒。り。る  
 なる。欺。さ。る。あ。つ。と。昔。に。隨。は。非。成。あ。げ。く。人。を。陥。ら。罪。成。ま。を。争。ひ  
 果。一。ス。つ。い。ハ。八。郎。呵。こ。う。ち。笑。ひ。向。ゆ。お。ち。て。結。成。は。落。る。汝。ホ。が。好。悪。ハ  
 生。を。か。え。世。成。か。あ。り。と。も。頭。成。続。べ。た。り。か。れ。力。の。定。色。逆。賊。と。い。ひ。た  
 戸。五。郎。ハ。その。家。臣。と。う。く。脱。き。途。の。る。ま。さ。ふ。こ。且。成。替。と。人。と。あ。つ。純  
 平。ハ。又。當。初。定。色。が。為。る。主。を。傷。ひ。その。蔭。は。立。ち。あ。つ。緯。逼。て。亦。これ。を。替。り  
 悪。逆。ま。つ。極。れ。り。吾。君。民。の。又。母。と。う。く。仁。義。成。成。旨。と。う。あ。つ。た。り。汝。成。成  
 赦。り。多。の。賞。罰。遂。は。行。き。忠。孝。な。が。く。廢。成。た。ん。今。汝。ホ。が。ま。う。生。成。成。成  
 隠。匿。而。路。頭。と。う。く。その。口。つ。つ。い。り。せ。ん。と。く。法。場。は。牽。か。せ。り。罪。藉。既。は

定さだまま律りつふふ于こ救けうふふじじ彼かれ縛ばくゆゆとと喚わんまま不ふ雜ざ兵へい亦また支しりりかかららととてて迎むか平へい戸こ五ご郎らうと  
 撲う地ちとと蹴けう倒たう押おてて索さく成じやう懸けんくく六ろく件けんのの二に人にんもも劇げつ騷さうだだくく屠と虜らふのの羊やうとと恨うらみみ賠ばい  
 給たふふ只ただ縛ばくここととゆゆ死し口くち流りゅうハハ金きん碗わん怒どままるる声こゑをを激しムム汝なんぢ小こ出でくく汝なんぢ小こ返かへるる惡あく逆さかのの  
 天てん四し訓くんハハ八はち割がせのの刑けいととすすくくとといいそそををせせハハ難なん兵へいホホハハけけ多たりり立たとと同どう檢けん罪ざい  
 人にん我が外がい面めんへへ牽けんののくくゆゆ死し時ときをを移うつささびびそそのの頭かぶめめるる我が綠りよく竹たけのの第だい小せう母ぼ身み死し矣や  
 檢けん小せう体たい行かうはは金きん碗わんゆゆびび令しやうとと傳でんくく彼かれ王わう梓しをを牽けんけけとといいままをを悲あはれれるる王わう  
 梓しハハ姿すがたのの花はなゆゆひひるる夜よ半はんのの鹿か小せう吹ふ萎しれれ天てん羅ら腹はられれをを縛ばくのの索さくハハ牽けん向かう一いつ姬ぎ  
 凡おのやや何なにととたたるる子このの立た小せう驢ろぐぐ雀すず立た時ときららとと伝でんとともも凡おのるるめめハハ暗あん死し孫そん麻ま推おままええ  
 らららら豫よとと知しるる孝かう吉きちハハ愧かひひくく雲うん毒どく時ときゆゆ以い汝なんぢ擡たいゆゆはは金きん碗わんハハ面めんととああけけとと  
 心こゝけけくく小せう勝しやう成じやうととめめ王わう梓し汝なんぢハハ前ぜん團だん主しゆのの側せき室しつへへとといいままららるる力ちからののややはは寵ちゆうとと  
 濟しりりてて主しゆ君きんをを傷や傷や主しゆ君きんをを傷や傷や政せい道だうハハ主しゆ君きんをを傷や傷や忠ちゆう臣しんをを傷や傷や賊さくととるるそそのの罪つととと

定さだまま身みハハ只ただ綾あや羅ら小せう纏でんりり玉たまをを焚た死し桂けいをを燒や富ふ貴き欽きん樂らく極ごくアアちちああけけとと  
 吉きちととああるるととふふわわんんかかくく山さん下げ定さだ包ほうがが逆さか謀ぼう既しハハ縛ばく成じやうとと兩りやう郡ぐん成じやう奪だつひひ白はくとと  
 汝なんぢハハ其その婦ふ妻さいととるるととてて愧かははるるととちちちちくく憚おそるるととちちちちくく城じやう陷けんるるままでで死しぶぶいいんん  
 造ぞう惡あくのの業ごう報ほうなりなり生なててハハ縲い縛ばくはは繫けい糸いと死ししてしてハハ祀まつららぶぶ鬼おにととななるる天てん罪ざい  
 罰ばつとといいひひままるるややとと言いははるるやや小せう叱ちままれれババ玉たま梓し申まをすすややくく既しとと搥たたけけららるる野のをを穿うるる  
 百ひやく羊やうのの苦く由ゆ樂らくもも他た人にんハハよよるるとといいららるるとと況あららむむ先せん君きんのの正せい室しつハハたたたたとと  
 光みつ弘こうかかつつるるとといいひひててハハよよるるべべかからら死し身みとと主しゆ憎にくみみ山さん下げゆゆ小せう思しひひてて深ふか窓まど小せう冊さつれれ  
 再また寢ねのの夢むをを結むすびびああへへむむ因いんとといいららるる過と世せのの因いん果ぐあハハああららんんむむとといいららんん又また  
 給た事じののちちめめららるる私わがハハままららりりぢぢちちくく忠ちゆう臣しんをを傷や傷やるる山さん下げゆゆ小せう惜じやく由ゆああららんんとと



賞罰を  
辨ゆ  
義実王梓ホヤ  
妹我を



といふ傍の妬媚ゆゑ。実あるべし。ゆめゆめ。神餘の老堂。若意。祿  
高く職重たも。大さかた。二君。小仕。も。恥とせ。ん。あ。ん。あ。か。か。か。  
き。入。熱。主。君。と。凌。死。く。逐。電。更。小。里。見。小。隨。瀧。田。の。城。を。落。あ。へ。と。  
鬼の毛。も。も。先。君。の。死。を。ゆ。め。あ。る。ゆ。は。あ。る。各。榮。利。の。為。不。被。こ  
仕。直。子。後。の。男。子。さ。ら。ぬ。の。如。し。女。子。の。う。め。の。流。麻。の。網。を。あ。る。も。世。に  
お。丹。う。り。あ。る。何。ゆ。や。玉。梓。ひ。と。り。う。め。の。さ。ら。は。罪。成。か。い。く。飽。え。憎  
や。せ。の。り。さ。る。いと。兼。が。つ。死。証。言。と。眼。尻。ひ。く。怨。む。且。八。郎。席。成。撲。地。と  
鼓。を。入。過。言。を。り。古。長。既。は。汝。が。奸。曲。ハ。推。量。の。強。あ。る。は。十。目。乃。視。は。野  
十。指。の。指。を。野。え。さ。ら。あ。る。海。兼。伏。せ。び。み。つ。う。許。く。喻。を。引。外。面。如  
昔。産。内。心。夜。又。顔。と。ゆ。は。う。う。う。う。あ。る。汝。ハ。綿。の。囊。小。包。の。毒。石。小。異。ス。の。ま。を  
さ。信。遅。し。女。子。な。ら。び。い。ん。ご。う。城。を。傾。く。べ。死。あ。ら。む。醋。六。純。平。か。の。神





麻呂信時

八天傳卷之三



木倉氏元

氏元  
勇を奮  
麻呂  
信時と誓

八天傳卷之三

一朝ふるるべしゆひらびとまらふのよみ獄寮一ありて賊婦を赦しひきく君も  
 又その色小愛く依估のおん沙汰ありるど人の批評ハ味うらんされば姐妃も  
 朝歌は殺さる大真ハ馬塊は猛るこれらハ傾國の美女あるもの玉梓が類ハ  
 あらきさりとて由國乱まその城敗る日小至る遠小斧鉞と脱さば赦し  
 めかところと辭儀しく練さる美実をかくうち点取とまあやまらぬ恨ぬ  
 とく牽牛も首を刎よと声き立く仰きま玉梓これを愛あへる花の  
 顔朱と涙死執核の玉死齒を切て主後成信とゆきま怒死るる金碗ハ  
 郎赦んとし小主命取拒く吾侪と斬るる汝も又遠うくも刃の精こなるの  
 ろふびそのあつぐく御給せん又美実ゆいふがひは赦せといひ舌ゆ引む  
 孝吉小説破るまら人の命を弄ぶまら似ぬ愚將ハ殺さば殺せ見孫まら  
 畜生道小導きてこの世うなる煩悩の犬とかなさんと罵れば物まいらせそ

幸立よと金碗が令を受難兵四五人立あつて罵り犯小玉梓と外面牽牛ハ  
 馳て首刎別よりけるあつは箱ハ八郎の父ハ仰を兼りて賊主定包玉梓ハ純平  
 戸五郎が頭りろ共は滝田の城下小殺を来ると現積悪の報ハ吁斯あらべたと  
 ろが今又小めまほはとて現るもの日毎小堵のれとさつ小その曉く小杉倉木  
 曾母氏元が使者とて蜚崎十郎輝哉といふの汗馬ハ鞭を鳴びし東條より  
 てせまきまら氏元が替取る麻呂小五郎信時が首級取斬り合戦のる体を  
 巨細小あえあげたりけるその國ハ小載るといふともろろげれば巻とめく  
 第七條の才が免小とらん又玉梓が悪念ハ良將義士小憑とめるのどその子  
 その子小黄縁と一旦不思議のいで来るゆその禍ハ後竟小福の端とる  
 ら此候まら廻なり関者彼賊婦が悪言小こら成とをまらるるひ後  
 南總里見八犬傳卷之三終

